

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム No.10 森林入門！

No.17 森林（ヤマ）の仕事体験

学校名	香美市立舟入小学校
学年	5年生 22名
実施場所	座学：教室 間伐体験：香北町岩改の森林
目標	・森林保全に携わる方々の苦労に触れ、体験することで森林の働きの重要性について理解する。 ・間伐体験を通して、森林の役割や保全の大切さについて理解する。
実施教科	社会
関連教科	5年 社会 国土の自然とともに生きる
持ち物	座学：筆記用具 間伐体験：軍手、ヘルメット、水筒

実施項目	座学（森林学習）
対象プログラム	No.10 森林入門！
所要時間	45分
実施内容	香美森林組合を講師に招聘し、間伐体験前の事前学習を行った。 チェーンソーや林業機械を使って木を伐採し製材される流れや、間伐についてのDVDを見た後、森林のはたらきや手入れの必要性、杉やヒノキの特徴、高知県や香美市の森林率、林業のサイクルなどの詳しい話がされた。 また、林業の道具や装備の説明、組合の業務などの話もされ、実際にチェーンソーの音を聞き、その迫力を体感した。 「切って売って余った木はどうしますか？」と、児童から質問があがり、講師は木材の規格の説明とともに、余ったタンクロを燃やして発電させるバイオマス発電で有効活用されていることが伝えられた。

補足	実際に現場で働く組合の方の話を聞き、教科書だけでは学ぶことができない学習が出来ました。
その他、プログラムの特徴	間伐の話の途中では、担任から児童に「みんなが理科で大根の葉を間引きしたことと一緒にですね」と伝えられていて、児童は実体験からも間伐についての理解が広がったようでした。

実施風景



実施項目

間伐体験

対象プログラム

No.17 森林（ヤマ）の仕事体験

所要時間

移動片道 30 分、間伐体験 120 分

実施内容・実施風景

午前に座学で事前学習を行った後、午後から間伐体験を行うため、バスで香北町岩改の森林に移動した。
児童はヘルメットと軍手を準備し、ノコギリは1人に1つ組合から借りた。
受け口追い口の説明を聞き、まずはチェーンソーを使った伐倒を見学した。
木が密集しているのでかかり木になり、1本を倒すにも苦労していた。



←伐倒した木の頭上には空間が出来、そこから日の光が差し込んだ。

児童は3班に分かれた。（各班：組合講師1名、生徒6～7名、先生1名）
ノコギリを使い、交代しながら受け口追い口を切って伐倒した。
綺麗に倒れた班もあったが、かかり木になった班もいた。

注意点：ノコギリのカバーは使う寸前に外すこと。使い終わったらカバーを付けて持ち運ぶこと。

受け口が出来ると木はいつ倒れてもおかしくないので、木より下には絶対に行かないこと。

伐倒した木は、児童みんなで枝を切って丸太にし、それを講師がチェーンソーでスライスし、持ち帰るお土産してくれました。



児童の感想：

- ・ヒノキはすごく堅かった。
- ・切っている時はヒノキのいい匂いがしました。
- ・倒れたら太陽の光が差し込んできて綺麗でした。
- ・枝を切ったとき、赤い所があつて聞いてみたら、赤い所は細胞などが生きているからだそうです。時間が経つと細胞などが死んで、白色になることを学びました。

先生より：

社会科の学習だけでは学ぶことができない職員の方の話を聞くことができ、学習が深まりました。また、実際に間伐を体験させてもらい、森林を守っていくことの大切さを身をもって学習することができました。

学習の成果：

組合の職員さんによる座学及び間伐体験を通して、間伐が森林の保全に重要な役割を担っていることや、林業の仕事、森林の役割について考えを深めることができた。間伐体験では、間伐されたところから日の光が差しこみ、間伐の大切さを実感している児童の様子があった。